

# アンダンチ

## 【キーワード】

〔施設種別〕 ■高齢者施設 ■障がい者施設 ■子ども施設 □住宅 ( )  
〔運営主体〕 □市区町村 ■法人 ■NPO □個人 (補助金) □内閣府 □国土交通省 □厚生労働省 ( )  
〔建物形式〕 □1棟単体型 ■複数棟集合型 □団地型 (建物状況) ■新築 □増築 □改修 □一部改修 □既存  
〔対象者〕 ■高齢者 ■障がい者 ■子ども ■ファミリー ■多世代



写真1. 外観(未来をつくるSDGsマガジントコトから引用)

誰もが気軽に集まり、仙台の方言「あなたの家(あんだんち)」に、“あなたの「地(場所)」「知(知恵)」「の意味も持たせて名付けられた。豊かな緑と生き生きとした活動の場である中庭をサービス付き高齢者向け住宅と看護小規模多機能、保育所、就労支援拠点、健康食の食堂、カフェ、物販、駄菓子屋として整え、地域の人々の居場所と役割を持って暮らす場所を目指している。

## ■施設概要

所在地：宮城県仙台市若林区なないろの里1丁目19番の地2

併設施設：サービス付き高齢者住宅、看護小規模多機能、レストラン、保育所、就労支援、物販（健康、クラフト、駄菓子屋）

各施設概要：アンダンチレジデンス（サービス付き高齢者住宅）

室数：50室（1人用46室，2人用4室）

対象：1) 65歳以上

2) 要介護認定を受けている方

：HOC カンタキ（小規模多機能型居宅介護）

利用者定員：29名

運営：医療法人モクシン

通いのサービス定員：18名

宿泊定員：7名

スタッフ：日中) 利用者3名に対し1名

夜間) 宿泊のある場合1名

訪問) 昼夜間問わず1名

：HOC 訪問看護ステーション

営業日：365日

営業時間：9時～17時（24時間の連絡体制）



図1. 立地周辺（国土地理院から引用\*）

地下鉄東西線 六丁の目駅下車 徒歩18分

地下鉄東西線 薬師堂駅下車 仙台市営バス乗り換え

（霞の目行 訳15分）霞の目営業所前下車 徒歩10分

仙台東部道路 仙台東ICより10分



図2. アンダンチ全体パース（アンダンチ公式HPから引用）

赤ちゃんからお年寄りまで、障がいの有無に関わらず、それぞれの役割の中で、心豊かに暮らす。そんな街づくりの拠点を目指している。

参考文献

1) 未来をつくる SDGs マガジン ソトコト (<https://sotokoto-online.jp/921>) 2020年12月5日参照

2) アンダンチ HP (<https://andanchi.jp/>)

2020年12月5日参照



写真2. 緑豊かな庭

緑豊かな庭空間は、入居者の方や、子ども、地域の方たちが利用でき、様々な交流がとられる。

運営：医療法人モクシン

：アンダンチ保育園（保育所）

対象：0歳、1歳児 10名

1歳、2歳児 9名

利用日：月曜日～土曜日

利用時間：7時30分～16時30分

：アスノバ（就労継続支援B型）

定員：20名

開所日：月曜日～金曜日

活動時間：10時～15時

（コミュニティスペース）

暮らしの保健室、小さな図書館、物販

利用時間：11時～16時30分

（レンタルスペース）

利用可能日：土曜日・日曜日

利用時間：9時～18時

事業者：株式会社未来企画

設計：(株)トランジット

設計：松井建設（レジデンス）

ジャパンビルド（カンタキ、飲食、アスノバ）

開設年：2018年7月



図3. 配置図（アンダンチ HP から引用）

サービス付き高齢者住宅、看護小規模多機能、レストラン、保育所、就労支援、物販（健康食品、クラフト、駄菓子屋）が緑豊かな中庭を囲み、地域の人々の居場所になっている。中庭は、「人生フルーツ」で、時を貯める暮らしという表現がされ、自分たちで畑を耕し、自分たちで雑木林を造ることで、丁寧な暮らしになってほしいという思いから、様々な種類の植栽が配置された。

## ■アンダンチレジデンス（サービス付き高齢者住宅）

"アンダンチレジデンス"はサービス付き高齢者住宅として、50の居室に加え、座敷やカウンター、ソファ席などのある共有リビングや、暖かな薪ストーブのある談話室、風通しのいいオープンテラスなどの居心地のいい居住空間があり、入居者は気分にあわせて過ごす空間を自由に選択することができる。日々の生活のほかに、入居者が買い物から調理まで行うカレーパーティーといった毎月のレクリエーション活動や、食育と共働き世帯の支援のための子ども食堂などが行われている。

敷地内には、保育園や飲食店、コミュニティスペースがあり、入居者の方も地域の方々も、子どもから高齢者まで自由に交流のできる場所が提供されている。アンダンチでは地域住民と交流するイベントを積極的に開催し、地域の縁側として、地域・多世代交流による豊かな街づくりに貢献している。

食事面では、敷地内にある"あんだんち食堂"で作られ、管理栄養士の監修の下、一人ひとりにあった食事が提供されている。

医療・看護環境も充実しており、介護職員が24時間365日常駐するほか、敷地内には看護小規模多機能型サービスを提供する"HOC カンタキ"があり、医療ニーズの高い方も必要に応じて医師の訪問診断や、訪問看護を受けることができ、誰もが安心して暮らせる環境である。



写真3. 談話室

談話室で入居者の方が子供たちを見守る様子。

入居者の方が騒いでいる子供たちを注意するといった、教育の面もある。



写真4. あんだんち食堂での食事

特殊な圧力鍋で炊いて3～4日間熟成させた"寝か玄米"や、国産無添加、地産地消での旬の食材を活かした手料理。



図4.5. アンダンチレジデンス各階平面図（アンダンチHPから引用）

4種類の住戸プランがあり、すべての部屋にトイレ、洗面台、収納スペースの設備がついている。各居室、トイレ、浴室棟には緊急通報装置が備え付けられており、安心して暮らせる環境となっている。

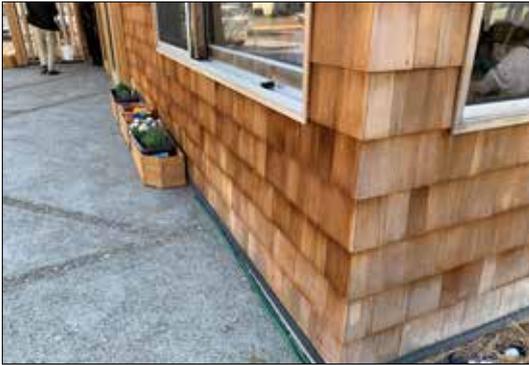


写真5. HOC カンタキ外壁

木の板が1枚1枚手作業で釘打ちされた特徴的な外壁。



写真6. HOC カンタキ室内

吹き抜けのある開放的な空間で利用者の方々は、気分にあわせて自由に過ごす。長期休み期間には子供たちが遊びに来ることがある。



写真7. アンダンチ保育園（アンダンチ公式 Twitter より引用）

緑豊かな庭にある井戸で遊ぶ子供たち

## ■ HOC カンタキ（看護小規模多機能型居宅介護）

アンダンチの敷地内にある "HOC カンタキ" は、自宅での暮らしを、通い・宿泊・訪問介護・ケアマネジメントを組み合わせ、24時間365日切れ間なく柔軟に生活支援が行われており、HOC カンタキは "2つ目の我が家" として利用されている。日々の生活のほかに、利用者の誕生日会や敷地内にある "アンダンチ保育園" の子供たちが遊びにカンタキを訪れ、子供たちと一緒に過ごすといった活動が行われている。

建物は、木造二階建てで、木の板が1枚1枚手作業で釘打ちされた外観が特徴的である。室内には掘りごたつや畳の部屋があり、落ち着く空間があるほか、大きな吹き抜けがあり、天井が高く、光の入る開放的な造りになっている。一階は "宿泊" や "通い" の利用者が日中、自由に過ごす場として利用されている。

## ■ アンダンチ保育園（保育所）

アンダンチ保育園は、入居者の方や地域の方々も、子どもから高齢者の方までどなたでも自由に交流できる企業主導型保育園。「人それぞれの個性や多様性を受容できる人間の基礎を培う」という理念の下、様々な個性や多様性が集まる環境で、原体験を大切に、子どもたち自身が実際に見る・触れる・感じながら、毎日生き生きと過ごしていける保育を目指している。

夏には子どもたちがテラスでトマトやゴーヤなどの野菜を育て、アンダンチ内のピザ窯で "夏野菜ピザ" をつくるといった活動が行われている。緑豊かな庭では、夏場は井戸水を使った水遊びやピオトープでカエルの観察など、自然と関わりながら活動がされている。

食事面では、子どもたちの健康の土台作りのため "あんだんち食堂" で作られ、管理栄養士の監修の下、地産地消で旬の食材を活かした食事が提供されている。

## 参考文献

- 1) アンダンチ公式 Twitter (<https://twitter.com/andanchi>) 2020年12月11日参照
- 2) アンダンチ公式 Instagram (<https://www.instagram.com/andanchi2018/?hl=ja>) 2020年12月11日参照

## ■アスノバ（就労継続支援B型・コミュニティースペース）

アスノバは障害者就労支援事業所と地域・多世代交流を目的としたコミュニティースペースのほかに、地域住民の方が作ったものを販売する物販スペース、地域の方のおススメの本が紹介される小さな図書館として利用されている。

障害者の就労支援プログラムとして、施設内の清掃活動や印刷機・3Dプリンターを用いた作業、農産品の集荷作業、物販スペースでの接客などが行われ、複合型事務所として、障害者の方の特性に適した仕事を創出している。

アスノバは、暮らしの保健室としての役割もあり、地域に住む方たちの暮らしや健康・医療・介護の相談を受け、専門職・医療機関・地域包括支援センターへの橋渡しを行っている。お茶を飲みながらゆったり過ごせ、アットホームで気軽に相談のできる、地域に開いた場所を目指し活動している。

ケアラズカフェ"ケアカフェアンダンチ"としての活動も行っており、医療介護福祉などのケアに関わる人が、日常のケアについて相談する場となり、領域間のバリアをなくし、地域ケアの向上を目的としている。

隣接地では、放課後デイサービスも行っており、子どもたちと一緒にお菓子作りなどの活動が行われ、交流がとられている。

## ■福のや（駄菓子屋）

アンダンチレジデンス入口付近には、地域の子どものための交流の入り口として、駄菓子屋"福のや"が設けられている。福のやではアンダンチレジデンスの入居者の方が店番を担当し、子どもたちと交流がとられている。保護者からは好評で、子どもに他のお店に行くより"福のや"で買い物させているといった声や「指定の文房具を置いてほしい」といった要望が出ている。



写真8. アスノバ外観

木造二階建ての三角な建物。一階は地域の方との交流を目的としたコミュニティースペースとなっており、キッチンもあるため、レンタルスペースとしても利用されている。二階は就労支援の作業室となっている。



写真9. アスノバ物販スペース

地域の方が作った物を販売する。就労支援として、障害者の方が接客を行う。



写真10. 福のや

アンダンチ内にある駄菓子屋。入居者と子供たちの交流の入り口になっている。



写真 1 1. ヤギ小屋プロジェクト（アンダンチ公式 Twitter から引用）

ヤギ小屋造りを通して学生と関係性が生まれた。



写真 1 2. ヤギ小屋（アンダンチ公式 Twitter から引用）

アンダンチにあるヤギ小屋。子どもが命の大切さを学ぶ。



写真 1 3. イベントの様子（アンダンチ公式 Twitter から引用）

イベントを開催すると多くの人で賑わう。

## ■緑豊かな庭

庭では、緑豊かな植栽やバーベキュー炉、ピザ窯のほかに、東北工業大学から譲ってもらったヤギを飼っており、子どもたちが命の大切さを学ぶほか、ヤギ小屋造りのなどを通して学生との関係を持っている。アンダンチのある若林地区は仙台市で唯一大学が無い地区のため、貴重な関係が築けている。

アンダンチでは地域住民との交流のため、若手演奏家によるチャリティーコンサートやクリスマスマーケットといったイベントを積極的に開催している。アンダンチがオープンして1ヶ月で開催した縁日では、地域住民や学生など300～400人の人が訪れた。クリスマスマーケットでは、"やりたいことをやって地域を盛り上げよう"という考えの下、福祉系・街づくり系の人たちと協力し、20団体、個人を含め約500人の人たちが関わりイベントを開催した。地域の中学生やチアリーディングサークルの方々から演奏やパフォーマンスをしたいという要望があり、オープニングで披露してもらい、大いに賑わった。開催されるイベントでは多くの人々が訪れ、アンダンチが目指している、入居者や地域住民、子どもから高齢者まで、人と人との繋がりを創り出し、一人ひとりが心地よいと思える地域の縁側のような場が提供されている。



写真14. アンダンチレジデンス×アンダンチ保育園  
(アンダンチ公式 Twitter から引用)

アンダンチレジデンス内で子どもたちとの交流イベント。が行われた



写真17. アスノバ×アンダンチ保育園 (アンダンチ公式 Twitter から引用)

アスノバに子どもたちがハロウィンの仮装をして訪れた。



写真15. HOG カンタキ×アスノバ (アンダンチ公式 Twitter から引用)

高齢者の方と障害者の方が一緒にお菓子を作る。



写真18. イベント (アンダンチ公式 Twitter から引用)

アンダンチ1周年を記念してイベントが開催された。



写真16. アスノバでの就労支援 (アンダンチ公式 Twitter から引用)

就労支援として施設の清掃が行われる。



写真19. 地域交流イベントの様子 (アンダンチ公式 Instagram から引用)

イベントでは演奏やダンスなどが披露され、交流がとられる。